



第4回学校運営協議会（コミュニティ・スクール 通称CS）が以下の次第に沿って2月10日（火）に開催されました。

- <次第> 1 開会のあいさつ（CS会長 筒井 明子 様）
 2 2月までの教育活動の進捗状況について（学校長 灰野仁）
 3 熟議 「令和7年度学校経営基本方針について」
 4 閉会のあいさつ（CS副会長 田村 純子 様）



○2月までの教育活動進捗状況について(報告)

- 1 令和8年度入学選考の結果 → 志願者数は146人。倍率は昨年度を上回り1.39倍に上昇した。
 （法改正に伴う中学校の定員減（120人から105人へ）の現状であるが、少子化が進む中で「選ばれる学校」であるための努力を続ける）
- 2 5年生フィールドワークの実施 → 九州方面でFWを実施。個々のテーマをより深く探究する活動をした。
- 3 前期合唱発表会の実施 → クラスごとに生徒が主体となって練習を積み重ね成果を存分に発揮した。
 （クラスが一体となり気持ちを高め歌声を響かせた。特に3年生の合唱の質の高さは来場者に評価された。）
- 4 薬物乱用防止教室の実施 → 2年生は「薬の使い方」「たばこの害」「アルコール・ノンアルコールの害」について、4年生は「薬物の恐ろしさ」について学んだ。
- 5 3年生新潟医療福祉大学訪問 → 大学を訪問することで、進路意識を高揚させるとともに、目的意識を持って進路選択することの大切さを学んだ。
- 6 第4回土曜活用講座実施 → 9講座が開催され、参加した生徒（50人）、保護者（20人）は、知見を広げたり、新たな気づきを得たりした。
- 7 1年生新潟市内事業所訪問 → 職場体験で訪問した事業所を再度訪問した。前回訪問した際に伺った事業所が抱える課題について自分たちなりに解決策や改善策を考え、プレゼンテーションを使用して提案してきた。
- 8 総合的な学習・探究の時間の充実 → 6回目の「サンゴゼミ」を実施した。今年度から実施した新しい取組で、中等教育学校の特色を活かし、前期課程と後期課程を切れ目無くつなげることに寄与している。
- 9 生徒会役員選挙 → 選挙管理委員会の運営により行われ、全校生徒が真剣に投票に臨んだ。
- 10 総合的な学習・探究の時間の充実 → 11月は「ゲスト対話会」12月には「研究対話」を実施した。
 （発表の質の向上も含め6年間を貫く総合探究を見据え総合部を中心として年間計画の見直しを進めている。）

○「令和8年度学校経営基本方針（案）」について

校長がアンケート結果を示しながら説明

知性・豊かな人間性・高い志を育む教育目標を継続し、生徒の状況に応じた教育内容の見直しを基本方針としている。学習指導では、適切な負荷で学力と表現力を高め、道徳・人権教育を推進。体験を通じた高い志の育成を図り、安易な進路選択を避けるよう指導する。6年間やり遂げることを重視し、生徒の成長に合わせた指導を徹底。

〈新潟市が策定したスクールミッション〉

志の涵養を中核に据えた6年間の一貫した教育により、社会に変革を起こせる生徒を育成する学校

注：文科省では、各高等学校に期待される社会的役割（スクール・ミッション）を再定義することを推進しています。

1 スクール・ポリシー

- (1) グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像、卒業認定に値する生徒）
- (2) カリキュラム・ポリシー（高志中等教育学校の教育課程編制方針）
- (3) アドミッション・ポリシー（高志中等教育学校が求める人材）

2 教育目標

「志の涵養」涵養：自然に水がしみこむように少しずつ養い育てること。

3 教育理念

「自律と互敬」自律：自分で考え、自分の意志で行動する。互敬：互いのよさや持ち味を認め合い、尊重し合う。



○熟議 「令和8年度学校経営基本方針について」

委員の主な発言

- ・経営方針は緻密で良いが、多様性に配慮し見やすさの改善を提案する。
- ・現状の子どもたちの育ちと理想とのズレに対し、具体的な手立てを打つものであると解釈した。
- ・教職員や生徒へのアンケート結果を反映させ、リアルな現状を踏まえた方針説明の必要性を指摘した。
- ・子どもたちが自分の意見を伝えたり、他者の意見を理解したりする力がまだ弱いと感じ、積極的な自己表現や論理的な議論の不足を指摘した。
- ・抽象的な目標と具体的な経験を結びつける「逆向き設計」の重要性を述べ、合唱発表会などを例に、具体的なエピソードを可視化して目標とのつながりを言葉にすることを提案した。
- ・緻密で思いがこもっていると評価しつつ、保護者にも読んでもらえるよう工夫が必要だと述べた。
- ・「自律と互敬」について、生徒が自分を低く評価する傾向があることや、アンケート結果と実際の生徒の行動との乖離を指摘した。
- ・スクールミッションの「社会に変革を起こす」という表現が重すぎると感じ、より現代的な「創造性豊か」や「貢献」といった言葉への変更を提案した。
- ・サンゴゼミの授業で内容が深まり、生徒たちは起業できるレベルにもなったように感じると評価し、ゼミの効果を実感していると述べた。

熟議後、校長は経営方針文書の可読性向上や、教職員・生徒アンケート結果を反映した方針策定にも注力し、現状と理想のギャップを埋めることを目指すことを示した。



次年度へ向けての意見等

教育内容・指導の深化

- ・探究学習（サンゴゼミ等）の継続と成果発表の実施、具体的な指導方法の確立。
- ・「自律と互敬」の理念を具体的な行動に落とし込み、生徒が自己評価できる指導の強化。
- ・対話的・論理的思考力、自己表現力の育成を授業内外で推進。
- ・適切な負荷をかけた学習指導の継続と、生徒の実態に応じた最適化。
- ・体験学習を重視した進路指導の充実と、模試の必要性の精査。



学校運営・方針の改善

- ・経営方針文書の可読性を高め、保護者を含む関係者への周知を徹底。
- ・教職員・生徒アンケート結果を明確に方針に反映させ、説明責任を強化。
- ・スクールミッション「社会に変革を起こす」の表現について、より現代的で分かりやすい言葉への見直しを検討。
- ・学年・学級経営案の再導入の可能性と、教員の負担軽減策を協議。
- ・学校定員減に伴う学校規模の変化に対応し、学校全体の活性化策を検討。



生徒支援・環境整備

- ・レジリエンス教育を継続し、生徒の心のケアと自己肯定感を高める取り組みを強化。
- ・自動販売機導入に伴う利用ルール（特にスマホ決済等）を策定し、生徒・保護者へ周知。
- ・携帯電話の校内管理ルール（個人ロッカー保管）の徹底と運用改善。

外部連携・広報

- ・PTAとの連携を強化し、アドミッション・ポリシーの継続的な周知と学校理念への理解促進。

○承認

令和8年度の学校経営基本方針について、委員のみなさまからご承認をいただきました。



〈会長より〉
会議の最後に、4年間の会長としての活動を振り返り、委員へ感謝を述べ、学校運営協議会の活動が地域と一体となった学校づくりに貢献したと委員のみなさまへの労いの言葉をいただきました。



今年度最後の学校運営協議会では、委員のみなさまから次年度へとつながる活発なご意見をいただきました。これらのご意見を次年度にしっかり生かし、教育活動の充実を図っていきます。